

こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.60



未曾有の被害をもたらした東北地方太平洋沖地震。被災された方々、ご家族の皆様にご心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

震災直後からコマージュナルが自粛され、その代わりに「住みよい市民社会の実現を目指す」ACジャパンの啓発コマージュナルが大量に流されるようになりました。その中の一つに「こだまでしようか」があり、これを学んだ児童もいます。

今回は平成22年度武蔵町人権フェスティバルに応募された作品の一つを紹介いたします。

こだまでしようか
「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていうと
「ばか」っていうと
「ばか」っていうと
「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていうと
そうして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていうと
こだまでしようか、
いいえ、だれでも。
(金子みすゞ全集より)

相手の気持ちを考えて

武蔵東小学校5年(応募当時)

田邊 凌雅

ぼくは、友だちと遊ぶのが大好きです。でも、遊んでいるうちにぼくがいやになる言葉を言われたりしたことがあります。その時のぼくの気持ちは、とってもいやな気持ちでした。そのことを、家に帰って、お父さんと、お母さんに相談してみると、お母さんが、「あんたもそういうことがあるやろ。」と言われました。

ぼくは、お母さんに言われた時、ぼくも人がいやだなと思うような言葉を使っていたことがあったなということを思い出しました。

ぼくは、相手がいやな気持ちになる言葉を使う時はなんとも思わないけど、言われた方はいやだなと思うはず、とぼくは思います。だからぼくは、あの時から、人にやさしくすると心の中で思いました。

でも、つい相手がいやになる言葉を使うことが、今でもあります。ぼくは、その時なげか、自分が言った言葉で自分が悲しい気持ちになりました。わけは、ぼくの言った言葉で相手の気持ちをききつけたからです。

一学期に「こだまでしようか」という詩を勉強しました。金子みすゞさんの詩です。ぼくは、この詩を読んで、いやな言葉を言ってしまったら、相手をききつけるだけじゃなく、いやな言葉がかえってきたり広がったりすることに気づきました。

ぼくは、自分が言う一言一言の言葉を考えながら、言葉にしたいです。これからは、自分の言った言葉で、相手の気持ちをききつけたいように気をつけたいです。

第4回国東市隣保館まつり

「NUNOの川柳」応募作品

いづくしむ心を花は裏切らず

国東町 平永 光

ごめんねと

すなおにうしろのNUNO

武蔵町 藤原 良輔

お知らせ

☆同和問題学習会(隣保館)

5月27日(金) 午後2時~4時

問い合わせ 国東市隣保館

☎0978-68-1722